

79 番の歌 しっかりと立つよう教える

聖書レッスン生がエホバのために生きていきたいと思えるよう助ける

「**信仰を持ってしっかりと立ちましょう。 強い人になってください」。** コリント第一 16:13

ポイント：聖書レッスン生が**信仰を育てエホバに仕えたいと思えるよう**、教えている人には**何ができる**ですか。

1-2. (ア) バプテスマをためらう人がいるのはどうしてですか。 (イ) この記事ではどんなことを取り上げますか。

バプテスマを受ける前、**自分はエホバの証人にはなれない**と感じたことがありましたか。もしかしたら、**同僚や友達や家族からどう思われるか**が気になったのかもしれませんし、**エホバの基準に合わせて生きていくことはとてもできない**と感じたのかもしれません。そうであれば、**バプテスマを受ける決心がつかない**でいる聖書レッスン生の気持ちがよく分かるはずです。

2 そういう**不安な気持ちがある**と、**信仰はしっかりと育っていません**。イエスは**そのことを分かっていました。** (マタ 13:20-22 岩地にまかれたもの、これは王国に関する言葉を聞き、喜んでぐに受け入れる人です。 21 けれども自分の内に根がなく、一時は続いますが、その言葉のために苦難や迫害が生じると、すぐに信仰を捨ててしまいます。 22 いばらの間にまかれたもの、これは王国に関する言葉を聞く人ですが、今の体制での**心配事や富の誘惑**(*裕福という魅惑(見せ掛けの幸せ))によってその言葉がふさがれ、**実らなく(if*その人は実らなく)**なります。) でも、イエスは弟子になることをためらっている人たちを見限ったりせず、次の4つのことができるよう助けました。「(1) どんなことが成長を妨げる壁になっているかを**知る**、(2) エホバへの**愛を深める**、(3) **優先順位を見直す**、(4) **反対されても上手に対応する**。」では、**どのようにイエスに倣ってレッスン生を助けられる**でしょうか。レッスン生がエホバに仕えたいと思えるように、「いつまでも幸せに暮らせます」の本を**どんなふうに活用できる**でしょうか。

(1) どんなことが壁になっているかを知る

3. ニコデモはイエスの弟子になるためにどんな壁を乗り越えなければいけませんでしたか。

3 ユダヤ教の指導者だったニコデモには、イエスの弟子になるために**乗り越えなければいけない壁**がありました。イエスが伝道を始めて半年ほどたった頃、すでにニコデモは**イエスが神から遣わされたことを認めていました。** (ヨハ 3:1, 2 パリサイ派の人で、ニコデモという男性がいた。ユダヤ人の支配者の1人だった。 2 この男性が夜にイエスの所に来て、言った。「ラビ、私たちは、あなたが**教師として神のもとから来た**ことを知っています。神が共にいない限り、あなたが

するような奇跡(d*しるし)は行えないからです」。) でも、人目を避けてイエスに会いに行きました。「ユダヤ人たちを恐れていた」からです。(ヨハ 7:13)もちろん、ユダヤ人たちを恐れていたので、誰もイエスについて表立って話そうとはしなかった; 12:42 実際には、多くの支配者たちもイエスに信仰を持った。しかしパリサイ派を恐れて、会堂から追放されないために、公言しようとはしなかった。) イエスの弟子になると失うものが大き過ぎる、と考えたのかもしれません。*イエスに会ってから2年半後も、ニコデモはまだユダヤ人の高等法廷の一員でした。(ヨハ 7:45-52)ある文献によると、ニコデモが弟子になったのはイエスが亡くなった後のことだという言い伝えがあります。(ヨハ 19:38-40)

4. イエスはニコデモをどのように助けましたか。

4 ニコデモは律法に通じていましたが、イエスの弟子になるために何をする必要があるかは分かっていました。イエスはニコデモをどのように助けましたか。夜にやって来たニコデモとゆっくり話し合い、弟子になるために何をする必要があるかをはっきり教えました。罪を悔い改め、バプテスマを受け、神の子に信仰を持たなければいけません。(ヨハ 3:5)イエスは答えた。「はっきり言っておきますが、水と聖なる力によって生まれなければ、誰も神の王国に入ることはありません、14-21 そして、モーセが荒野で蛇をさおに掲げたのと同じように、人の子も掲げられなければなりません。15 彼を信じる人が皆、永遠の命を受けるためです。16 神は、自分の独り子を与えるほどに人類を愛したのです。そのようにして、独り子に信仰を抱く人が皆、滅ぼされないで永遠の命を受けられるようにしました。17 神が自分の子を世に遣わしたのは、彼が世を断罪するためではなく、世が彼を通して救われるためです。18 彼に信仰を抱く人は裁かれません。信仰を抱かない人はすでに裁かれています。その人は、神の独り子の名に信仰を抱いていないからです。19 さて、裁きの根拠は次の通りです。光が世に来ているのに、人々は光ではなく闇を愛しました。邪悪なことを行っていたからです。20 悪を行っている人は、光を憎んで、光の所に来ません。自分の行いが暴露され(*戒められない)ようになります。21 しかし、正しいことを行う人は光の所に来ます。自分の行いが神の意志に沿っていることが明らかになるようにするためです」。)

5. 成長のネックになっているものに気付けるよう、レッスン生をどのように助けられますか。

5 聖書をよく理解しているレッスン生でも、なかなか成長していないように見えることがあります。仕事や家族からの反対がネックになっているのでしょうか。レッスン生は自分にとって何がネックになっているか分かっていないのかもしれません。それで、お茶をしたり散歩したりして一緒に時間を過ごしましょう。そういうリラックスした雰囲気の中では、自分の状況や気持ちを正直に話してくれるかもしれません。あなたを喜ばせようとしてではなく、エホバに喜ばれたいという思いで壁を乗り越えられるよう助けてください。

6. レッスン生に自信を持ってもらうために何ができますか。(コリント第一 16:13)

6 レッスン生が学んだ通りにしようという気持ちになるには、エホバが必ず助けてくれると信じられるようになることが必要です。(コリント第一 16:13) 目を覚ましていましょう。信仰を持つてしっかりと立ちましょう。勇敢に行動し、強い人になってください。を読む。) レッスンで教えている人は学校の先生に似ています。学生の頃、どんな先生が好きでしたか。生徒としっかりと向

き合って、自信を持たせてくれる先生ではないでしょうか。同じようにレッスンで教える時も、単にエホバが何を望んでいるかを教えるだけではなく、エホバがいれば必ず壁を乗り越えられるという自信をレッスン生が持てるようになります。そのために何ができるでしょうか。

(2) エホバへの愛を深める

7. イエスは、教える相手がエホバのことをもっと好きになるよう、どんなことをしましたか。

7 神への強い愛が育って初めて、学んだ通りにしたいという気持ちになります。そのことを知っていたイエスは、エホバへの愛が大きくなるような教え方をしました。ある時、エホバのことを子供に良いものを与える父親に例えました。（マタ 7:9-11 実際、あなたたちのうち誰が、自分の子からパンを求められて、石を渡すでしょうか。 10 また、魚を求められて、蛇を渡すでしょうか。 11 それで、あなたたちが罪深い人間でありながら、子供に良い贈り物を与えることを心得ているのであれば、まして天にいる父は、ご自分に求めている人に良いものを与えてくださるのです。）父親の愛情を知らずに育った人も、この例えを聞いて優しいお父さんをイメージしやすくなつたことでしょう。別の時には、自分勝手な生活をした息子を温かく迎える父親に例えました。聞いていた人たちは、エホバの愛の大きさがもっとよく分かるようになったはずです。（ルカ 15:20-24 そしてそこを出て父親のもとに向かいました。彼がまだ遠くにいる間に、父親は息子を見てかわいそうに思い、走つていって抱き締め(*首を抱き)，優しく口づけしました。 21 息子は言いました。『お父さん、私は天に対しても、あなたに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれるに値しません』。 22 しかし父親は奴隸たちに言いました。『さあ早く、長い服、一番良いのを出してきてこの子に着せ、指輪をはめ、サンダルを履かせなさい。 23 それから、肥えた子牛を連れてきて調理し(*犠牲にし)なさい。食べて祝いましょう。 24 私のこの息子が死んでいたのに生き返ったのです。いなくなっていたのに見つかりました』。そして楽しいひとときが始まりました。）

8. レッスン生がエホバをもっと愛せるよう、教えている人には何ができますか。

8 私たちも、レッスン生がエホバのことをもっと好きになれるような教え方を心掛けます。エホバの素晴らしさや魅力的な性格についてよく話すようにしましょう。毎回のレッスンで、今学んでいることからエホバの愛がどんなふうに伝わってくるか話し合ってください。例えば、贖いについて教える時、それが自分への贈り物だと思えるよう助けましょう。（ロマ 5:8 しかしキリストは、私たちがまだ罪人だった間に、私たちのために死んでくださいました。そのことにより、神はご自分の愛を私たちに示してくださいっています。ヨハ一 4:10 私たちが神を愛したというより、神が私たちを愛し、私たちの罪を償う(*私たちを神と和解させる)犠牲としてご自分の子を遣わしてくださったのです。これこそが愛です。）エホバが自分のことをどれほど深く愛しているかが分かると、レッスン生のエホバへの愛もぐっと深まります。（ガラ 2:20 私はキリストと共に杭にくぎ付けにされています。もう自分のためには生きておらず、キリストと結び付いて生きています(d*生きているのはもはや私ではなく、私と結び付いて生きているキリストです)。人間としての今の命を、神の子への信仰によって生きているのです。神の子は私を愛し、私のために自分を差し出してくださいました。）

9. マイケルが生き方を変えたいと思ったのはどうしてですか。

9 インドネシアのマイケルのことを考えてみましょう。マイケルは子供の頃から聖書について教えられていきましたが、バプテスマは受けませんでした。18歳の時、外国に行き、トラックの運転手として働くようになりました。その後、インドネシアに戻って結婚しましたが、出稼ぎのため1人でまた外国に行きました。その頃妻と娘が聖書レッスンを始め、信仰を育てていきました。しばらくして母親が亡くなったため、マイケルはインドネシアに戻って父親の世話をすることにし、自分も聖書レッスンを始めます。「いつまでも幸せに暮らせます」のレッスン27の「もっと調べよう」を学んだ時、マイケルは心を揺さぶられました。エホバが愛する息子イエスが苦しんでいる様子を見てどれほど心を痛めたかを考えると、涙が込み上げてきました。贋いに深く感謝するようになったマイケルは、ぜひ生き方を変えたいと思えるようになりました、バプテスマを受けました。

(3) 優先順位を見直す

10. イエスは弟子たちが優先順位を見直せるよう、どのように助けましたか。（ルカ5:5-11）（挿絵も参照。）

10 イエスが宣教を始めすぐ、イエスをメシアだと認めて弟子になった人たちがいました。でも、伝道を一番大切にするために優先順位を見直さなければいけませんでした。ペテロとアンデレは弟子になって少したった頃、イエスから自分にずっと付いてくるようにと勧められました。（マタ4:18, 19 イエスがガリラヤ湖の岸辺を歩いていると、2人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが湖に網を投げていた。2人は漁師だった。19 イエスは言った。「私に付いてきなさい。魚ではなく人を集め漁師にしてあげましょう。」）2人は漁業のビジネスで成功していました。ヤコブやヨハネとも一緒に仕事をしていたと思われます。（マル1:16-20 イエスがガリラヤ湖の岸辺を歩いていると、シモンとその兄弟アンデレが湖に網を投げていた。2人は漁師だった。17 イエスは言った。「私に付いてきなさい。魚ではなく人を集め漁師にしてあげましょう。」18 2人は直ちに網を捨てて後に従った。19 イエスは少し歩いていき、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが舟の中で網の手入れをしているのを目にして、20 すぐに2人を呼んだ。2人は、父親のゼベダイと雇われ人たちを舟に残してイエスの後に付いていった。）でもペテロとアンデレは「網を捨て」、漁業を後にしました。家族をきちんと養えるような計画を立てた上でそうしたようです。優先順位を見直して伝道にもっと打ち込もうと思えるようになったのはどうしてでしょうか。イエスが起こした奇跡を見て、エホバが必ず養ってくれるという確信を持てるようになったからです。（ルカ5:5-11）しかしシモンは答えた。「先生、一晩中働いて何も捕れませんでした。それでも、おっしゃる通り、網を下ろしてみます」。6 下ろしてみると、非常に多くの魚が掛けた。網が裂け始めるほどだった。7 それで、もう一方の舟にいる仲間たちに合図をし、助けに来もらつた。両方の舟は魚でいっぱいになり、沈みかけた。8 シモン・ペテロはこれを見てイエスの前にひれ伏し、「私から離れてください、主よ。私は罪深い男なのです」と言った。9 大漁だったので、シモンも一緒にいた人も非常に驚き、圧倒されてしまったのである。10 シモンの仲間であるゼベダイの息子たち、ヤコブとヨハネも同様だった。しかしイエ

スはシモンに言った。「恐れることはありません。今後、あなたは人を生きたまま捕るのです」。11 この人たちは舟を陸に戻し、一切のものを捨ててイエスの後に従った。)



優先順位を見直せるよう弟子たちを助けたイエスにどのように倣えますか。(10-11節を参照。)

*写真や挿絵: ペテロたちが漁業をやめてイエスに付いていこうとしている。

11. レッスン生が信仰を強められるよう、どんなことを話してあげられますか。

11 もちろん、私たちはイエスのように奇跡を起こすことはできません。でもレッスン生に、エホバへの崇拜を優先するとエホバがどのように支えてくれるかを話すことはできます。例えば、あなたが集会に出席したいと思うようになった時、エホバがどんなふうに助けてくれたかを話してあげられます。集会に行きたいので残業できないと上司に伝える必要があったかもしれません。エホバのために一步踏み出した時、どのようにエホバがサポートしてくれたか、そしてその経験を通してどれほど信仰が強くなったかを話してあげてください。

12. (ア) いろいろな兄弟姉妹にレッスンに参加してもらうとよいのはどうしてですか。(イ) 大切なポイントを教えるために、動画をどのように使えますか。

12 レッスン生にとって、兄弟姉妹がどのように優先順位を見直したかを知るのは良いことです。それで、いろいろなバックグラウンドの兄弟姉妹にレッスンに参加してもらいましょう。どんないきさつで真理を知ったか、エホバへの奉仕を優先するためにどんな努力をしたかを話してもらえます。また、「いつまでも幸せに暮らせます」の「もっと調べよう」や「見てみよう」にある動画も活用できます。例えばレッスン37を学んでいる時、「エホバは必要を顧みてくださる」の動画を見て、レッスン生が大切なポイントを学べるように教えましょう。

(4) 反対されても上手に対応する

13. 弟子たちが反対に対応できるよう、イエスはどんなことをしましたか。

13 イエスは、弟子たちが反対に遭うことになると繰り返し伝えました。家族から反対されることもあります。(マタ 5:11 私のために非難(*侮辱)され、迫害され、悪意のあるうそをいろいろ言われるとき、あなたたちは幸福です; 10:22 そしてあなたたちは、私の名のために全ての人から憎まれますが、終わりまで耐え忍んだ人が救われます、36 自分の家の人たちが敵になるのです。) また、イエスは宣教の終わりが近づいた頃、弟子たちが命を落とすこともあると言いました。(マタ 24:9 その時、あなたたちは苦難を味わい、殺されます。私の名のために全ての国の人々から憎

されます。ヨハ 15:20 奴隸は主人より偉くない、という私の言葉を覚えておきなさい。世の人々が私を迫害したのであれば、あなたたちをも迫害します。私の言葉を守ったのであれば、あなたたちの言葉も守ります；16:2 人々はあなたたちを会堂から追放します。実際、あなたたちを殺す人が皆、自分は神に神聖な奉仕をしたと思う時が来ます。）用心深く伝道する大切さも教えました。反対されても事を荒立てたりせず、慎重に対応して伝道を続けるように、とアドバイスしました。

14. レッスン生が反対に遭っても対応できるように、教えている人には何ができますか。（テモテ第二 3:12）

14 私たちもイエスのように、反対されたらどうしたらよいかをレッスン生に教えることができます。聖書を学んでいることで同僚や友達や家族からどんなことを言われる可能性があるか、考えてもらいましょう。（テモテ第二 3:12 神への専心を貫き、キリスト・イエスに従って生きようとする人は皆、同じように迫害を受けます。を読む。）生き方を変えようとすると、同僚からばかにされるかもしれません。聖書の教えを家族から批判されることもあります。反対に遭った時どうすればよいか、できるだけ早く考えておけば、実際そうなった時にうまく対応できるようになります。

15. レッスン生が家族から反対されているなら、どんなふうに助けられますか。

15 レッスン生が家族から反対されているなら、家族の身になって考えてみるよう勧めることができます。だまされているのではないかと心配しているのかもしれませんし、エホバの証人に偏見を持っているのかもしれません。イエスも家族からばかにされたことがあります。（マル 3:21 イエスの親族はそのことを聞き、イエスを捕まえに行った。「彼は頭がおかしくなってしまった」と言っていた。ヨハ 7:5 イエスの弟たちはイエスに信仰を抱いていなかった。）それで、反対されても家族に辛抱強く親切に接することの大切さを教えましょう。

16. レッスン生が上手に家族に話せるよう、どのように助けることができますか。

16 家族が聖書に興味を持っていると分かったらどうしたらよいかも、レッスン生に教えてあげましょう。あまりにも多くのことを一度に伝えないようにします。そうしないと、うんざりしてもう話を聞きたくないと思ってしまうかもしれません。興味が持続するように、少しずつ話すように勧めましょう。（コロ 4:6 塩で味付けされた快い言葉を語るように心掛けましょう。そうすれば、誰に対してもどのように答えるべきかが分かります。）jw.org を紹介するのも一つの手です。そうすれば相手は自分のペースでエホバの証人について知ることができます。

17. レッスン生がエホバの証人について何か尋ねられた時に上手に答えられるよう、どんなふうに助けられますか。（写真も参考。）

17 レッスン生は家族や同僚からエホバの証人について何か尋ねられるかもしれません。そういう時に備えて jw.org の「よくある質問」を使って、どんなふうに答えられるか一緒に考えることができます。（テモニ 2:24, 25 主の奴隸は争う必要はありません。必要なのは、誰にでも穏やかに(*巧みに)接すること、教える資格があること、不当な扱いを受けても自分を抑えること、25 好意的でない人たちを温厚な態度で教えることです。もしかしたら神は、その人たちが悔い改めて(*)

考えを変えて)真理の正確な知識を得られるようにされるかもしれません。) 「いつまでも幸せに暮らせます」の各レッスンの最後には「こう言う人もいる」というセクションがあります。実際にそう言われたら自分の言葉でどう説明できるか、トライしてもらいましょう。どうすればもっと上手な伝え方ができるか、アドバイスしてあげられます。そうやって練習すれば、レッスン生は自信を持って語れるようになります。



レッスン生が伝道できるよう、一緒に練習しましょう。 (17節を参照。)

*写真や挿絵: 姉妹がレッスン生と一緒に伝道の練習をしている。

18. レッスン生が伝道を始められるよう何ができますか。 ([マタイ 10:27](#))

18 イエスは弟子たちに良い知らせを広く伝えるよう命じました。 ([マタイ 10:27](#) 私が闇の中で告げる事を、光の中で言いなさい。ささやかれた(d*耳の中で(に)聞く)事を、屋上から伝えなさい。を読む。) 伝道に出るようになると、レッスン生はエホバに頼ることがどれほど大切かを学びます。では、伝道者になれるようレッスン生をどんなふうに助けられますか。記念式や地区大会の招待キャンペーンについて会衆で知らされたら、レッスン生に伝道者になるよう勧めましょう。キャンペーンの時期は伝道を始めやすいタイミングだということを伝えてあげられます。また、週日の集会では自信を持って伝道できるようにトレーニングを受けられます。それで、生徒としてその集会に参加するように勧めてください。

レッスン生を信じる

19. イエスは弟子たちのどんなところに注目していましたか。そのイエスにどのように倣えますか。

19 イエスは亡くなつて天に戻る前、弟子たちにやがてまた会えると言いました。弟子たちはイエスの言っていることがよく分からず、疑うようなことを言いました。でもイエスは、弟子たちがエホバとイエスを心から愛していることに注目しました。 ([ヨハ 14:1-5](#) 「動搖してはなりません。神に信仰を抱き、私にも信仰を抱きなさい。 2 私の父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかつたなら、そのことを告げたことでしょう。私はあなたたちのために場所を整えに行こうとしているのです。 3 行って場所を整えたら、再び来てあなたたちを私の所に迎えます。私がいる所にあなたたちもいるようにするのです。 4 私の行こうとしている所、そこへの道をあなたたちは知っています」。 5 トマスが言った。「主よ、あなたの行こうとしている所が分からぬのに、どうしてその道が分かるでしょうか」、[8](#) フィリポが言った。「主よ、私たちに父を見せてください。それで十分です」。) 天での命など新しい教えを理解するには時間が必要だとい

うことも知っていました。（ヨハ 16:12 あなたたちに言うべきことがまだたくさんありますが、あなたたちは今はそれを理解できません(*に耐えられません)。）私たちもレッスン生がエホバに喜ばれたいと思っていることを信じ、そのことを伝えましょう。

伝道に出るようになると、レッスン生はエホバに頼ることがどれほど大切な学びます。

20. チフンドー姉妹がすぐにレッスンを打ち切らなかったのはどうしてですか。

20 正しいことをしたいと願う レッスン生の気持ちを信じることは大切です。マラウイのチフンドー姉妹は「いつまでも幸せに暮らせます」を使って、アリナフェーという若いカトリック教徒の女性と聖書レッスンをしていました。姉妹はレッスン 14を学び終えた時に、像を使って崇拜することについてどう思うか質問しました。アリナフェーは感情的になって、「それは私が決めることです」と言いました。姉妹は、この人はもうこれでレッスンをやめるかもしれないと思いました。でも、いつか考え方方が変わると信じてレッスンを続けました。そして数ヶ月後、レッスン 34の時に、「これまで聖書と真の神エホバについて学んできて、どんなことが良かったと思いますか」と質問してみました。その時のことを姉妹はこう言っています。「アリナフェーが本当によく学んでいることが伝わってきました。エホバの証人は聖書が禁じていることを絶対にしない」とも言ってくれました。しばらくしてアリナフェーは像を使うのをやめ、バプテスマを受けました。

21. レッスン生が成長するために私たちにはどんなことができますか。

21 レッスン生を「成長させる」のはエホバですが、私たちとしてもできることがあります。（ヨリ一 3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させる神なのです。）単に、神が何を望んでいるかを教えるだけではありません。エホバへの愛が深まるように助けてください。その愛に動かされて優先順位を見直すよう勧めます。反対された時にどのようにエホバに頼って対応できるかを教えます。レッスン生を信じていることを伝え、やる気を引き出しましょう。そうやって、レッスン生がエホバの基準に合わせたい、エホバのために生きていきたいという気持ちになれるよう、ベストを尽くしましょう。

次のことができるようレッスン生をどんなふうに助けられますか

1. どんなことが壁になっているかを知る

・S05 レッスン生は自分にとって何がネックになっているか分かっていないのかもしれません。それでお茶をしたり散歩したりして一緒に時間を過ごすリラックスした雰囲気の中で、ご自分の状況や気持ちを正直に話してもらうようする。司会者のあなたを喜ばせようとしてではなく、エホバに喜ばれたいという思いで壁を乗り越えられるよう助ける

2. エホバへの愛を深める

- ・S08 エホバの素晴らしいや魅力的な性格についてよく話すようする。毎回のレッスンで、今学んでいることからエホバの愛がどんなふうに伝わってくるか話し合う。例えば、贖いを自分への贈り物だと思えるよう助ける

3. 優先順位を見直す

- ・S11 レッスン生に、エホバへの崇拝を優先するとエホバがどのように支えてくれるかを話せる。例えば、①司会者の自分が集会に出席したいと思うようになった時、エホバがどんなふうに助けてくれたかなどの経験や、それによって信仰がどれほど強められたかを話してあげられる
- ・S12 ②いろいろなバックグラウンドの兄弟姉妹にレッスンに参加してもらい、どんなときつで真理を知ったか、エホバへの奉仕を優先するためにどのように優先順位を見直したかを話してもらう。③また、「いつまでも幸せに暮らせます」の「もっと調べよう」や「見てみよう」にある動画も活用できる

55番の歌 恐れていけない！

△ イエスに会ってから2年半後も、ニコデモはまだユダヤ人の高等法廷の一員でした。（ヨハ 7:45-52）ある文献によると、ニコデモが弟子になったのはイエスが亡くなった後のことだという言い伝えがあります。（ヨハ 19:38-40）

△ 写真や挿絵：ペテロたちが漁業をやめてイエスに付いていこうとしている。

△ 写真や挿絵：姉妹がレッスン生と一緒に伝道の練習をしている。

△ (コリ一 16:13) 目を覚ましていましょう。信仰を持ってしっかり立ちましょう。勇敢に行動し、強い人になってください。

△ (マタ 13:20-22) 岩地にまかれたもの、これは王国に関する言葉を聞き、喜んですぐに受け入れる人です。21 けれども自分の内に根がなく、一時は続きますが、その言葉のために苦難や迫害が生じると、すぐに信仰を捨ててしまいます。22 いばらの間にまかれたもの、これは王国に関する言葉を聞く人ですが、今の体制での心配事や富の誘惑*によってその言葉がふさがれ、実らなくなります。

または、「裕福という魅惑（見せ掛けの幸せ）」。

もしかすると、「その人は実らなく」。

△ (ヨハ 3:1, 2) パリサイ派の人で、ニコデモという男性がいた。ユダヤ人の支配者の1人だった。2 この男性が夜にイエスの所に来て、言った。「ラビ、私たちは、あなたが教師として神の